

# 人魚 (1964)

メディア 映画 アニメ

ジャンル

製作国 日本

色彩 Color

時間 8分

初公開日 1964/09/21

## 【解説】

手塚治虫が虫プロの場で作った、先行作品『おす』に続く2本目の短編実験アニメ。

そこはどこかの遠い国。空想力の豊かな一人の少年が、ある日、海辺で小さな魚を助ける。助けられた魚は少年の前で愛らしい人魚の娘の姿になった。少年は人魚を家に連れて帰り大きな水槽に入れるが、同居する両親の目にはそれは魚にしか見えなかった。やがて警官が現れ、少年を連行する。この国では自由な空想は許されないのだった。少年は厳しい拷問に耐えるが、釈放された時にはもはや人魚が魚にしか見えなくなってしまう。そんな魚を手には、少年は海へ向かうが……。

「自由」をテーマにした観念色の強い作品で、少年ほかの登場人物たちはいずれもシンプルな絵柄で作画される。1960年代前半の国内外の社会問題を鋭敏に捉えた、手塚の危機意識が反映された作品という見識もある。全編を彩る音楽は、富田勲がドビュシーの「牧神の午後の前奏曲」をもとにアレンジ。

## 【クレジット】

演出 手塚治虫 Osamu Tezuka

製作 富岡厚司

構成 手塚治虫 Osamu Tezuka

原案 手塚治虫 Osamu Tezuka

撮影 佐倉紀行

音楽 富田勲 (ドビュシー「牧神の午後への前奏曲」より)